

## 7 御崎神社

吉備津神社の末社として創建（川入459小西村公民館）



### 大賀一郎博士 顕彰碑

大賀一郎博士は、2000年前の古蓮の実からの発芽を成功させた理学博士。神社の近傍に、大賀博士の偉業を讃える顕彰碑があります。



この神社は吉備津彦命の隨神犬養健命を祭神とする吉備津神社の末社である。明治43年「神社合祀令」により吉備津神社の本宮社に合祀され、その社殿跡に「御崎神社址」の碑が建てられたが昭和23年に再建、造営された。(碑は不要となった)

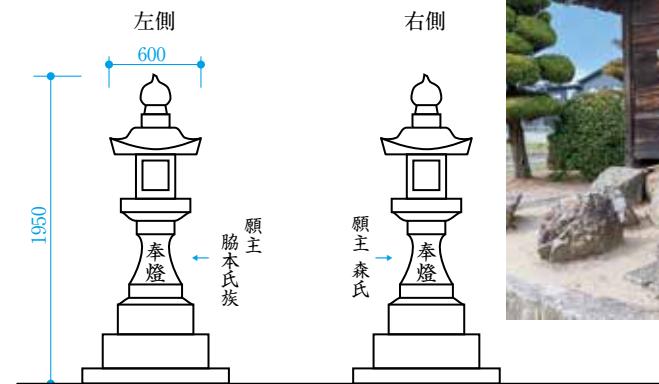
創建の時代は文化の頃、庄村の日幡宮から勧請したと記録にある。手水鉢には文化五年(1808)と刻まれている。社号は先導役の隨神犬養健命の先導の御先が転訛し御崎となった。

境内の南側に用水路を隔てて、大正6年頃まで荒神様と稻荷神社が祀られていた。御崎神社を結ぶ橋の手前に鳥居があった。その笠木が保存されている。

境内にある「御立橋」の碑は觀音堂の北西にあった橋の欄干の親柱で、昭和の拡幅工事で不用になり記念保存している。「小西」とは境川の西、「かわにし(川西)」が転じて「小西」となった。

**本殿前の燈籠**

令和7年現在、本殿と燈籠は撤去されている。

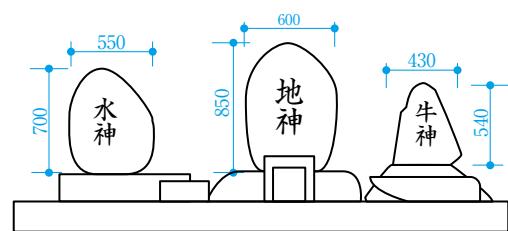


奉納の年代は不明。脇本氏、森氏一族により奉納された。

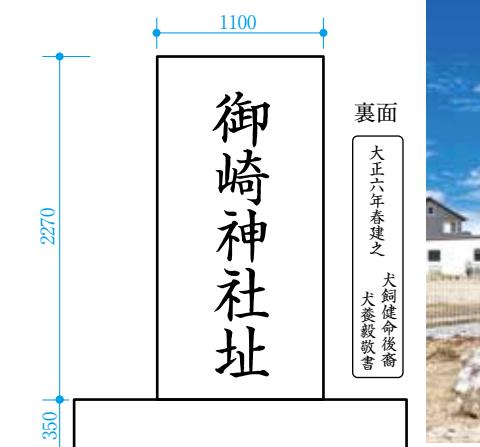
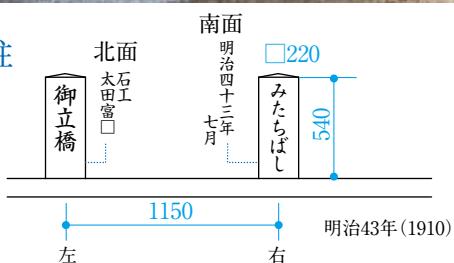
脇本氏は高松の合戦の時、毛利勢の援軍として参戦した津和野城主吉見正頼の一族で、その後板倉村近くに「脇本」を名乗り土着した。

**地神・水神・牛神**

元は用水路を隔てた土手の上にあった。

**史跡の碑**

(昭和23年に神社が再建されたため、この碑は意味が無くなった)

みたちばし  
御立橋の親柱  
(東面より)**歌碑**